

平成二十六年歌会始御製御歌及び詠進歌

静

御製

慰霊碑の先に広がる水俣の海青くして静かなりけり

皇后陛下御歌

み遷りの近き宮居に仕ふると瞳静かに娘は言ひて発つ

皇太子殿下

御社の静けき中に聞え来る歌声ゆかし新嘗の祭

皇太子妃殿下

悲しみも包みこむごと釜石の海は静かに水たたへたり

文仁親王殿下

数多なる人ら集ひし遷御の儀静けさの中御列は進む

文仁親王妃紀子殿下

いくつものボビンを子らは繰りながら静かにイドリアレースを編めり

眞子内親王殿下

新雪の降りし英国の朝の道静けさ響くごとくありけり

正仁親王妃華子殿下

秋祭君の挨拶を聞かむとし子供神輿の子らは静まる

崇仁親王妃百合子殿下

思ひきや白寿の君と共にありてかくも静けき日々送るとは

寛仁親王妃信子殿下

わが君と過ごせし日々を想ひつつ静かながるときありがたき

彬子女王殿下

夏の夜に子らと集ひし大社おほやしろしじま静寂の中に鈴の音聞きぬ

憲仁親王妃久子殿下

灯籠のあかりともれる回廊を心静かに我すすみゆく

承子女王殿下

静けさをやぶる神社の鳥の声日の落ちてよりいづる三日月

典子女王殿下

かすみゆく草原くさひはらに立ち眺むればいとど身に沁む静けさのあり

御製

慰霊碑の先に広がる水俣の海青くして静かなりけり

天皇皇后両陛下は、昨年十月の全国豊かな海づくり大会御臨席のための熊本県行幸啓の際、海上歓迎行事御臨席及び御放流等のため水俣市を初めて御訪問になった。水俣市では、御到着後すぐに、水俣病慰霊の碑に御供花されたが、その折、慰霊碑の先に広がる水俣の海を御覧になり、お詠みになった御製。

皇后陛下御歌

み遷りの近き宮居に仕ふると瞳静かに娘は言ひて発つ

黒田清子様は、神宮式年遷宮にあたり、臨時神宮祭主として、一昨年の拝命以来度々に神宮の諸祭事に御奉仕になった。この御歌は、御遷宮の間近い昨年九月、黒田様が、伊勢への御参向を前に、天皇皇后両陛下に御挨拶に訪れられた際のご様子をお詠みになったもの。

皇太子殿下

御社の静けき中に聞え来る歌声ゆかし新嘗の祭

皇太子殿下には、天皇陛下にお供をされ、毎年十一月二十三日から二十四日にかけて皇居神嘉殿で行われる新嘗祭にお出ましになっていきます。このお歌は、その折、静まりかえった神嘉殿のお社の中で、外から聞こえる楽部の奏でる神楽の音色に深い趣を感じられてお詠みになられたものです。

皇太子妃殿下

悲しみも包みこむごと釜石の海は静かに水たたへたり

皇太子同妃両殿下には、東日本大震災の被災地お見舞いのため、昨年十一月に岩手県釜石市を^ご訪問になりました。

同市は平成二十三年三月の東日本大震災で地震と津波による甚大な被害を受け、現在は復興の途上にありますが、両殿下には、昨年五月に釜石市平田^{へいた}で三年ぶりにウニ漁が再開されたことなどを現地でお聞きになり、嬉しくお思いになりました。

^ご訪問になられた日の釜石湾は、静かに風いでおりました。妃殿下には、その湾の様子をご覧になり、長年海とともに歩んできたこの地域の人々の悲しみが少しづつ癒やされていってくれているよう、そして、海が穏やかに人々の暮らしを守り、豊かな恵みをもたらしていってくれるよう、願いを込めてこの歌をお詠みになりました。

文仁親王殿下

数多なる人ら集ひし遷御の儀静けさの中御列は進むぎよれつ

秋篠宮殿下は、昨年十月、神宮式年遷宮祭に参列されました。十月二日に行われた「遷御の儀」では、参列者への案内等の声が聞こえてはきますが、御垣内、特にご神体の出御の折には浄闇となり、大層静寂に感じられ、その時のご印象をお詠みになりました。

文仁親王妃紀子殿下

いくつものボビンを子らは繰りながら静かにイドリアレースを編めり

秋篠宮妃殿下は、昨年六月、秋篠宮殿下と共に、クロアチア、スロバキア、スロベニアの三か国を訪問されました。スロベニア国イドリヤ市では、数百年前からレースが作られてきました。現地のレース編み学校を見学された折に、子どもたちがボビンと呼ばれる細長い棒状の道具を上手に用いながら、心静かに繊細なレースを編む様子をお詠みになりました。

眞子内親王殿下

新雪の降りし英国の朝の道静けさ響くごとくありけり

眞子内親王殿下は、一昨年八月から昨年六月まで、英国エディンバラ大学に短期ご留学なさいました。ご留学中の冬のある朝、前夜に降った雪が積もり、まだ人もあまりいない道を歩いていると、とても静かで、それが響くように感じられたご印象をお詠みになりました。

正仁親王妃華子殿下

秋祭りあきまつりの挨拶を聞かむとし子供神輿みこしの子らは静まる

毎年秋祭りに町会の子供御輿みこしが宮邸に来てくれます。日焼けして鉢巻はっまききに法被姿はっぴの元気な子供たちが、宮様のご挨拶のお声に静かになる情景をお詠みになったものです。

崇仁親王妃百合子殿下

思ひきや白寿の君と共にありてかくも静けき日々送るとは

寛仁親王妃信子殿下

わが君と過ごせし日々を想ひつつ静かにながるときありがたき

薨去された宮様との日々に思いを寄せられ心寂しくお過ごしでおられたところ、福島県にお成りになられた際、被災地の皆様が強く生きておられる姿に勇気を頂いてお詠みになったものです。

彬子女王殿下

夏の夜に子らと集ひし大社おほやしらしじま静寂しじまの中に鈴の音聞きぬ

昨年八月、総裁を務められる心游舎のキッズキャンプで島根県にお成りになられ、出雲大社の夜間参拝をなさった折、夜の完全なる静寂の中に、自分たちの振る鈴の音だけが聞こえたという様子をお詠みになったものです。

憲仁親王妃久子殿下

灯籠のあかりともれる回廊を心静かに我すすみゆく

春日大社にご参拝された時のことを詠まれたものです。

承子女王殿下

静けさをやぶる神社の鳥の声日の落ちてよりいづる三日月

神社で、急ににぎやかになった鳥の声に気付かれると、いつの間にか日が暮れていて、空にきれいな三日月が出ていた様子を詠まれたものです。

典子女王殿下

かすみゆく草原くさのほらに立ち眺むればいとど身に沁む静けさのあり

召人 芳賀 徹
子も孫もきそひのぼりし泰山木暮れゆく空に静もりて咲く

選者 岡井 隆
朝霧のながるるかなた静かなる邦あるらしも行きて住むべく

選者 篠 弘
一瞬の静もありありて夕駅へエスカレータは下りに変はる

選者 三枝昂之
から松の針が零れる並木道みんな静かな暮しであつた

選者 永田和宏
歲月はその輪郭をあはくする静かに人は笑みてゐるとも

選者 内藤 明
手に載せて穴より覗く瓢箪の静けき界に心はあそぶ

選 歌 (詠進者生年月日順)

愛知県 伊藤正彦
いなづまのまたひらめきし静かなる窓ひとつあり夜をひとりあり

山口県 中西輝磨
目の生れし魚の卵をレンズもて見守る実験室の静けさ

徳島県 藤本和代
おほいなる愛のこもれる腎ひとつ静かに収まる弟の身に

北海道 佐藤眞理子
プレートよ静かにしづかに今しがた生まれたひとりが乗らうとしてゐる

群馬県 山口啓子
ひとり住む母の暮しの静かなり父のセーター今日も着てをり

大阪府 前田直美

嫁ぐ日の朝あしたに母は賑やかに父は静かに食卓囲む

福島県 富塚真紀子

吾の名をきみが小さく呼捨てて静かに胸は揺らいでしまふ

東京都 樋口盛一

静けさを大事にできる君となら何でもできる気がした真夏

東京都 中島梨那

二人分焼いてしまった食パンと静かな朝の濃いコロンビア

新潟県 加藤光一

続かない話題と話題のすきまには君との距離が静かにあつた

佳 作 (詠進者生年月日順)

滋賀県 竹井 静

乃木静子夫人の一字戴きて今年三月百歳となる

宮城県 三文字むめ

間伐を終へたる林通る風杉の木末こぬれを静かに揺らす

富山県 細川喜久恵

理容の椅子たふせば眠りゆく人の頬泡たてて静かに剃りぬ

福島県 佐藤美二

ねむの木よ彼の日の如く咲きたるかわれは静かに仮設に暮らす

山口県 松原八重子

竹林のさやぎ静まりさあ今だ石灰二十キ口畑はたに振り撒く

神奈川県 城野治二郎
瀬戸の海夢多き日に架けし橋老いて静かに山より眺む

埼玉県 前田英實
常よりも励みし今日の営みを夜の静寂に思ふひととき

長野県 久保田幸枝
くりかへし津波は心に押し寄せるあの日の静止画像を越えて

兵庫県 橋本節子
雲間より飛行機音の聞え来る静かな町の君に逢ひたし

福島県 折笠弘子
静岡県金魚の形と言ふ孫の改めて見る日本の地図

愛知県 林 建生
聳え立つ社の二本静かなり神の昇る木神の降りる木

福岡県 青木佳代子
いま母が独り夕餉に向かふのか山すその里静かに灯る

新潟県 小野眞智子
採り終へし葡萄畑は静まりて礼肥れいこえを撒く確かなる音

宮城県 菱沼愚人
閑上ゆりあげのまち全体がさら地となり潮風静かに来る季ときのなし

福島県 渡辺三利
退職の日の終電を見送りて静かに白き手袋を脱ぐ

神奈川県 桑原由吏子
忘れもの帽子が三つ図書館に夏の静かな夕暮が来る

東京都 高橋千恵

一滴も零すことなく浮かびたる静かの海へ手を伸ばしたり

新潟県 高橋ひとみ

たまにはな泣けばいいさとつぶやいて静かに笑ふおばあさんの横顔

京都府 蔵本勝希

針の音聞えぬままに時は過ぎ静かなことすら気付かずにもた

神奈川県 越田健介

放課後の廊下静かにのびる影「あきらめるな」と呟いてゐる